

# 徳島県の七十五膳神事

いち しん 橋 はし たか 高

総合科学部・人間社会学科・助教授（人間社会文化）

## 七十五膳神事とは？

徳島県内の5つの神社に、神前に75膳の神饌（神様のお食事）をお供えする「七十五膳神事」と呼ばれる、全国的に見ても珍しい神事が伝えられている。以下、県下の七十五膳神事の様子を紹介しながら、この神事の意味について考えてみたい。

## 県内各地の事例

川島町の川島神社では、毎年10月の秋祭りの例大祭の神事に続いて七十五膳神事が行われる。氏子から奉納されたおこく（炊いたご飯）・酒・穀物・魚・海藻・野菜・果物などのありとあらゆる食べ物を75台の三方に載せ（写真1）、本殿にお供えする。



写真1 川島神社の七十五膳

山川町川田の八幡神社では、10月の秋祭りに合わせて七十五膳神事が行われる。神前には75台の三方が供えられるが、それぞれの三方には、ご飯・餅・栗・昆布・いりこの五品が盛りつけられる。新穀で造った甘酒も付き物である。美郷村平の八幡神社で10月の秋祭りに行われる七十五膳神事の神饌はちよつと変わった形をしている。中央にご飯を置き、四隅に餅を並べ、さらにその上に竹串に刺した橙・餅・栗のピラミッドをかぶせるというものだ（写真2）。



写真2 八幡神社(三郷村平)の七十五膳

神山町上分の黒松八幡神社では、10月の秋祭りの際に三角飯・果物・菓子を75台の三方に載せてお供えする。一夜造りの酒も添える。同じく神山町上分の新田八幡神社では、1月15日にトウヤと呼ばれるその年の祭りの当番の家に神社のご神体を移し、75皿のご飯を飾って祀る。

## 七十五膳神事と新嘗祭

それではこうした「七十五膳神事」にはどのような意味があるのだろうか。県内5カ所の七十五膳神事に共通するのは、その年に土地でとれたさまざまなものを八百万の神様にお供えするという点である。特に供え物の中心は新穀で作ったおこく（ご飯）にある。神社の祭りの種類の中に「新嘗祭」と呼ばれるものがある。天地の諸神に新穀を奉納し、その守護に感謝を捧げる祭りだが、七十五膳神事スタイルは、まさに新嘗祭そのものではないか。神山町では、戦前は七十五膳神事を霜月（十一月）に行っていたという話を聞いたが、新嘗祭は本来十一月の行事である。

## 七十五膳神事の意味するもの

七十五という数は、おまつりする神様の数が多いこと、また、神様に捧げる神饌の数や種類が多いことを表す、聖数宗教的に意味づけられた数」と考えられる。農業生活を守護してくれるありとあらゆる神々に、土地でとれたありったけの神饌（ごちそう）を捧げてもてなし感謝の念を表すこと、こうした気持ちで七十五膳」という形になって表れたのである。